

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 地域農業振興課
評価対象期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館	施設種別 農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1	
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。	
指定管理者	名称	(公社)大分県農業農村振興公社	
	代表者名	重盛 進	
	所在地	大分市舞鶴町1丁目4番15号	
指定管理業務の内容	施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 その他知事が特に必要と認める業務		
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし		
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日(5年間)		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		28
(1)施設の設置目的の達成			
計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	20	3	12
複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			

【評価の理由】

(農業文化公園)

平成28年度の入園者数は235,249人と目標指標330,000人に対する達成率は71.3%であるが、これは地震による影響と9月の連休を中心とした秋の行楽シーズンの雨天による影響であった。しかしながら、11月以降は平年並みの入園者を確保したことは評価できる。

入園者の増加を図り、農業文化等の情報発信のため、今年度から若手料理人と連携し、県産野菜等を用いた料理を提供販売する「おおいたベジフルフェスタ」を連休や夏休みに年4回開催した。

また、県産農産物のハーブを香りの面からPRするため、別府大学と「ハーブ協定」を締結し、園内でハーブを栽培するとともに6次産業化に向けた取り組みを進めている。以前から農業団体、市町村、各種団体等と種々の連携を行って来ている中で更に大学と連携を強化したことは評価できる。

利用者の利便性を図るため、公園の案内看板を多言語化するとともに、物産館内に設置している雨天でも子どもたちが遊べる県産木材を使用した「木のこどもエリア」を拡充した。

また、新たな来園者確保のために椿祭りに合わせて大分駅から無料シャトルバスを試験的に運行した。

施設間の連携については、キャンプ場利用者、研修館利用者に物産館のサービス券を配布したり、他施設利用者にもそれぞれのイベント・講座情報の告知を行うとともに、イベントと講座を連携して開催するなど強化を行い、相乗効果を高めている。具体的にはキャンプ場利用者のための収穫体験を実施した。

営業・広報は、マスメディア、旅行会社、観光関連施設とともに、平日利用の拡大に向けて、教育施設、福祉施設、公民館などへの情報提供を行っている。また、大手企業等へは直接外向き広報活動を行っている。

主な入園者である子育て世代の拡大に向け、HP、SNSの充実を図るとともにフリーペーパーによる情報発信を強化した。

(大分県都市農村交流研修館)

目標指標については、研修満足度は4.7、定員充足率97.9%と研修満足度の目標4.5、充足率の目標95%を上回っている。

利用者数は25,045人で、前年に比べ2,670人の減少であるが、これは地震等の影響による利用者減である。施設稼働率は48.4%で、前年同程度である。

大人向けの講座を親子で参加できるプログラムへ変更するなど若い親子が気軽に参加できるよう改善するとともに、別室での託児を行うことで、更に参加しやすい環境を作ったことは評価できる。

講座生の確保、部屋貸し拡大に向け、主要郵便局(60カ所)、市役所、JA、公民館などにパンフレットを配布した。また、定期的にマスコミ等を訪問し、PRに努めた。

(2) 利用者の満足度

利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	20	4	16
利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
利用者への情報提供が十分になされたか。			
その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			

【評価の理由】

(農業文化公園)

アンケート調査での総合評価は「大変満足」と「ほぼ満足」合わせて85%と多くの方に満足をいただいた。利用回数も、2回以上利用した人の割合は54%とリピート率は高い。アンケートの集計数は1,383件と前年に比べ147%増加しており、引き続きアンケート調査を実施し、サービス改善に努める。

一方、職員は直接利用者から意見や苦情の聞き取りを行っており、寄せられた要望や苦情は早期解決を図るとともに、朝礼や会議などで情報を共有している。また、外部の有識者から定期的に意見を伺う機会をつくるなど、利用者の満足度向上に積極的に努めている点は高く評価できる。

利用者への情報発信としては、ホームページをより見やすく改修するとともに、イベント・講座の案内をSNSなどを通じて頻繁におこなっている。また、マスメディアにも積極的に情報提供を行い、多くが掲載・放送されている。

(大分県都市農村交流研修館)

受講生へのアンケート調査では研修満足度は4.7と目標値を上回った。

アンケートの意見などを受け、新規講座を設けたり、講座の内容を変えるなど満足度の向上に努めている。

2 効率性の向上等に関する取組み	30		18
(1) 経費の低減等	20	3	12
施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。			
清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			
【評価の理由】			
(農業文化公園)(大分県都市農村交流研修館)			
施設の管理運営に関し、節電などの徹底により経費(光熱水費)を削減を行っている。特にLED化を推進している。			
また、外部経営コンサルに助言を求め、経営等を含めた効率性を追求している。			
園内施設の設備保守等の業務再委託については、県にならい複数業者からの入札等を実施し、経費の縮減を図っている。また、清掃業務については、引き続き直営で実施しているが清掃研修会を受講することにより、より効率的に行っている。			
施設の老朽化などから支出が増加傾向にあり、今後も一層の経費削減への取組み及び施設の予防保全等の取組みが必要である。			
(2) 収入の増加	10	3	6
収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
(大分農業文化公園)			
28年度の施設利用料・飲食、物品販売売上は合計で70,095千円であり、前年度に比べ15,688千円減少している。これは地震による入園者の減少が主要因である。しかしながら、客単価は296円/人であり、例年並みの客単価となっていることから来園者減分の金額の減少と言える。			
来園者の要望の多かったアシストつき電動自転車導入は収入増加へも結びついている。			
(大分県都市農村交流研修館)			
28年度の利用料収入は757千円で、前年に対し166千円の減、講座受講料も1,909千円と366千円減少している。どちらも地震によるキャンセルの影響である。			
部屋貸しについては稼働率48.4%と前年並みであり、貸館利用増加のための営業活動の強化と、公園イベントとの連携などの強化が必要である。			
3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30		24
(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況	20	4	16
施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。			
職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。			
地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			
【評価の理由】			
(大分農業文化公園)			
入園者が増える土日祝日や、イベント開催時・GW・夏休みなどの繁忙期に人員を多く配置するなど、業務量に応じた人員の配置をおこなっている。			
職員の資質・能力向上をはかるため、研修会等への参画を行っている。平成28年度の研修会参画は計15回。			
地域のこども園の農業体験、別府大学との棚田プロジェクト、農業者・団体と連携したイベントの開催、商品の開発などを行うとともに、地元市と連携した駅伝などのスポーツ大会の開催、企業と連携した展示会の開催など、幅広く連携や協働に取り組んでいる。			

(大分県都市農村交流研修館)

講座では農村女性をはじめ、地元の人材を講師として最大限に依頼するとともに、地元の食材を講座に活用している。また、農業団体、NPO、市町村、県などと連携した研修会や農山漁村女性グループと連携したイベントを開催するなど、目的に沿った適切な運営がおこなわれている。

特に女性組織との連携強化として若手農山漁村女性交流研修会として「夜なべ座談会」を開催し、宿泊場所の提供を行った。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。

施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。

利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。

施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。

管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。

防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。

防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。

事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

10

4

8

【評価の理由】

(農業文化公園)(大分県都市農村交流研修館)

変形労働時間制に関する協定届を提出するなど、関係法令は遵守されている。

個人情報については、指定管理者が「個人情報保護規程」を策定し、個人情報が記載された書類についてはシュレッダーで裁断するなど個人情報の適正管理に努めている。また、入園者には「個人情報のお取り扱いについて」と題した情報セキュリティポリシーを4箇所に掲示し、遵守に努めている。

なお、これまで情報漏洩等の事案は発生していない。

法令及び関連規程等の定めを遵守して平等利用に取り組んでおり、年間を通してトラブル等は認められていない。

営業収入の増加とあわせ、経費の節減にも取り組んでおり、指定管理業務は事業実施はもとより、収支を含め適正に運用されていると判断できる。

安全管理については、施設管理、防火管理、事故対応、災害対応のマニュアルを整備するとともに、インフルエンザや食中毒、口蹄疫等の特別な事象についてもマニュアルを整備し、災害等の発生に備えている。

施設・遊具等についても安全点検マニュアル、点検スケジュールを定めるだけでなく、職員による巡回点検を強化しており、日常の事故防止などに努めている。

緊急連絡体制を整備するとともに、衛生安全研修会や消防防災訓練等にも積極的に参加し職員の知識向上を図っている。特に防災訓練においては具体的な事象を想定することで職員の練度の向上に努めている。

自転車等の事故に対しては、近くにいる職員がすぐに駆けつけ対応する体制をとっており、事故によるトラブル等はない。また、総合案内所にAED(自動体外式細動器)を設置している。

【選定委員の意見】

--

【総合評価】

合計得点(100点満点)	70	評価ランク(A～E)	C
--------------	----	------------	---

【評価の理由】

(大分農業文化公園)

目標指標である年間入園者数330千人を下回っているが、これは地震や雨天の影響が大きかったことに由来するが、GW期間中の来園者は34,160人と県内観光施設等の中で1番であったことは評価できる。また、入園者獲得のために数多くのイベント開催、商品開発、営業活動を行っていることも評価できる。

施設の管理運営についても、法令や規則、マニュアル等に基づいて適正に行われており、入園者の安全にも配慮している。

(大分県都市農村交流研修館)

目標指標である満足度・充足率ともに目標指標を上回っており、講座についても公園及び研修館の設置目的に合致した内容である。また、講師として地域の人材や農村女性を活用するなど、独自性を追求したものとなっている。

農山漁村女性のキャリアアップに向けた研修やイベントの開催に積極的に取り組んでおり、女性の能力開発、経営意欲の向上、連携強化に貢献している。

【今後の対応】

(大分農業文化公園)

引き続き、施設の安全かつ適正な管理運営、サービスの向上等に努め、これまで以上に「利用したい」と思われる施設の管理運営に取り組むよう要請していく。また、公園の設置目的に合致した事業を今後も継続して実施することはもちろんのこと、これまで以上に創意工夫に富んだイベント等を多くの関係者、地域と連携しつつ実施し、入園者目標の達成を目指してもらいたい。

県民に求められる公園づくりに向け、アンケート調査については引き続き、回収数の増加に努めるとともに、直接入園者の意見を聞く場面の設定や民間等の人材を活用した検討会議の開催など、県民の意見を聞く場面の強化を要請する。

(大分県都市農村交流研修館)

引き続き、農業をベースに独自性と質の高さを追求した事業実施を要請する。

部屋貸し利用の増加に向けた営業活動を強化するとともに、公園イベントとの連携等を検討し収入増を目指してもらいたい。

【指定管理者評価部会の意見】

【評価】

- 1 イベントの充実を図るなど積極的な取組については評価できるが、具体的な数値に基づく費用対効果の分析などの検証が甘い。

【意見】

- 1 来場者数や収入・支出額の推移、物販の状況など、具体的に数値を分析し、各種の取組を客観的に評価・検証すべき。
- 2 HP上でクーポンを配布するなど、WebやSNSを使った広告を積極的に行うことにより、物産館への来客者を開拓していくべき。
- 3 レジ通過カウンターや個別の赤外線センサーを設けるなど、物産館の利用状況を的確に把握すべき。